

研究課題：中国語所蔵資料目録の整備と発信——太田文庫、日中演劇文庫をめぐって

1・太田文庫資料の整理と発信について

太田進教授（1930-2012、1995-2000 本学人文学部教授）から寄贈された太田文庫（10000 冊あまり、日本語、中国語）のリスト化は、助っ人、青野繁治大阪大学名誉教授によって中国書目録の誤字、脱字修正が行われ不完全ながらもほぼ完了した。目録によると、現在中国書 8616、和書 3266 点が KAC 図書館地下 1 階に太田図書として配列されている。今後さらに図書の確認配列作業が残っているが、すでに図書を譲り受けて 7 年が経過した。2022 年は太田進先生のご逝去 10 周年にあたる。これを記念して、いったん太田図書のお披露目を行うことにした。

①3月18日（土）14:00-16:00 神戸学院大学有瀬キャンパス@115Aにて太田文庫についての研究会を開催し、8本の研究発表が行われた。

②16:00-17:00 研究会後に、太田文庫見学会を行った。

③3月15日から5月末まで、図書館入り口の展示コーナーで、太田図書展示会をおこなっている。

④太田進教授ご逝去十周年 記念文集（目録 CD 付き）を出版した。

「太田文庫で新たな研究テーマを！」共通テーマとした文集は、中国文学研究者あてに、末に 150 部の配布を終えている。

太田文庫研究会には「毎年恒例の研究会にならないのか？」「毎週通って、勉強したい」との声が集まった。残された課題としては、書籍の分類と配架の不十分さがあげられるが、これはあと 1 年で、ほぼ解決するだろう。問題は図書館の関与が不十分なことである。

・現在、外部の方が見学や貸出を希望される時は、中山、池田磨左文（共通教育センター）、大濱慶子（グロコミ）に個別に連絡することになっている。このあいまいな体制が 10 年後も継続できるか不安である。

・太田図書が本学の財産であるという意識改革が大学図書館側に起こることを強く希望している。

2・日中演劇文庫の整理と発信について

書籍（520 点）、映像（202 点）、音源（カセットテープ 110 点）等の資料に関しては、エクセルによるリスト化が終了した。だが「日中演劇交流史」には貴重な一次資料である約 900 部の上演資料（パンフレット、チラシ、チケットなど）のリスト化は手つかずに残った。

今後の課題として、上演資料のリスト化とリストの公表方法が上げられる。だが「人文学分野における文献情報を有効活用する新たな手法として、ブロックチェーンに基づく人文情報活用システム」という大阪大学との共同研究がはじまった。これはブロックチェーンという技術を使用して、文献目録共有システムの開発を行うもので、その文献目録として、日中演劇文庫を提供している。完成後は、演劇研究者に呼びかけて使用してもらい、さらに開発者にフィードバックして改良する。これまでの研究については 5 月 20 日に「人文科学とコンピュータ研究会」（IPJS SIG Computers and the Humanities）での研究発表（提出予稿：「ブロックチェーンに基づく文献目録共有システムの開発」磨 有祐実、山田 憲嗣、中山 文、谷田 純）が決定している。これは情報処理学会の研究会のひとつで、ここでは情報技術を活用した人文科学分野の研究や人文科学に関連する情報資源の記録、蓄積、提供を推進している。本研究成果により、「定年退職後、半生をかけて収集した蔵書をどうするか」という人文学研究者の共通の悩みについて、ひとつの解決の糸口が提示されたと言えよう。